

防災専門官 野田^{のだ} 秀敏^{ひでとし}

昨年起きた災害と 防災対策

昨年は7月に入り東海や関東地方で、太平洋に停滞した活発な梅雨前線の影響で、非常に激しい雨が同じ場所に降り続く「線状降水帯」が形成され、静岡県熱海市で土石流が発生、26人が死亡、1人が行方不明になりました。

土石流が発生した地域は、土砂災害の警戒区域（イエローゾーン）でした。

8月中旬は、西日本で前線の活動が非常に活発化し、総降水量が多いところでは、1千400mmを超える記録的な大雨に見舞われました。特に8月12日～14日は、九州北部地方で線状降水帯が断続的に発生する記録的な豪雨になり、8月13日～15日には各県

に「大雨特別警報」が発表されました。

本市では、11日～18日にわたり災害警戒本部と災害対策本部を設置しました。

その中で、土砂災害の特別警戒区域と警戒区域に自主避難所3カ所を開設しました。また、高齢者等避難警戒レベル3と避難指示（警戒レベル4）を各2回発令し、最終的に21カ所の避難所を開設しました。



総雨量は800・5mmで、昭和48年の総雨量624mmを超える大量の雨となりました。

この降水量は、平年降水量1千817mmの約44%にも達し、8月平年降水量235・6mmの3・5倍の降水量になるなど、1946年の統計開始以降、8月の月降水量の記録を更新しました。ただ、幸いにも人的被害はなく、法面崩壊4件、土砂崩れ4件、道路冠水1件などの被害が発生しました。

《今から防災対策準備!》

コロナ禍3年目を機に、コロナ対策と命にかかわる怖い災害に、早めに備えましょう。

①「非常時持出品」備蓄品

非常時持出品と備蓄品をチェック、特に賞味期限と消費期限には注意しましょう。

②ラジオ・懐中電灯

放送確認、照明点灯など機能点検や電池の交換、予備



電池の再充電も忘れずに。

③災害の情報や避難情報

情報入手手段の確認や災害用伝言サービス171の使用要領を再確認しておく。(毎月1日・15日は体験利用もできます)

④災害リスクがある人

災害のマイタイムライン(自分・家族の防災行動計画)を作成して、避難のタイミングを確認しておきましょう。

⑤避難場所・避難経路の確認

避難所まで避難経路を歩いて、所要時間や複数の予備経路を確認しておきましょう。

⑥避難経路沿いの危険箇所

経路沿いの狭い道、蓋のな

い側溝や水路などはないか確認し、家族全員が知っておきましょう。

⑦コロナ禍の避難は!

●避難とは、「避難所に行くことではなく、難を避け安全を確保する」ことです。自宅で安全を確保できる人は、避難所に行く必要はありません。

●親戚や友人宅が安全で避難が可能な場合は「分散避難」も検討しましょう。

●避難所にはマスク・消毒液・体温計などを携行し、3密対策を徹底しましょう。

●夜間や豪雨時の移動は、車も含め危険です。早めの避難を心掛け、車中泊をする場合は浸水しない場所を選定し、エコノミークラス症候群にも注意しましょう。

